

全国初！シロアマダイ種苗の大量生産に成功

シロアマダイは、あまだい類の中で最も希少性が高く、市場でも滅多にお目にかかれない幻の魚です。非常に美味しい高級魚として知られ、県内漁業者からの種苗放流要望が強い魚種の1つです。一方で、その生態には不明な点が多く、種苗生産技術は確立されていませんでした。そこで当センターでは、平成29年度から本種の種苗生産に向けた研究を開始しました。

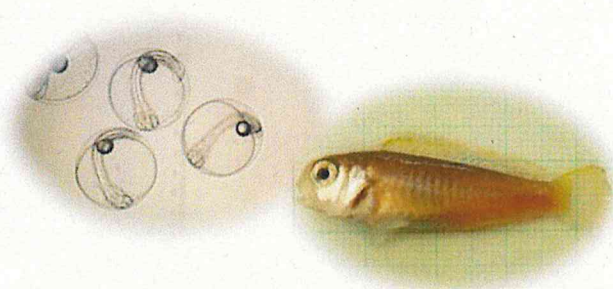
今年度、シロアマダイの産卵期である春先に親魚を確保し、その親魚から約40万粒の受精卵を確保しました。また、(公社)山口県栽培漁業公社と共同で種苗生産試験を行い、全長40mm種苗・約8万尾の生産に成功しました。これまでにシロアマダイ種苗の大量生産に成功した例はなく、全国初の成果となりました。

今後、さらに研究を重ね、安定的な種苗生産や効果的な放流のための技術開発を進めていきます。

※本研究の成果は、水産庁委託事業（さけ・ます等栽培対象資源対策事業）で得られたものです。



シロアマダイの親魚

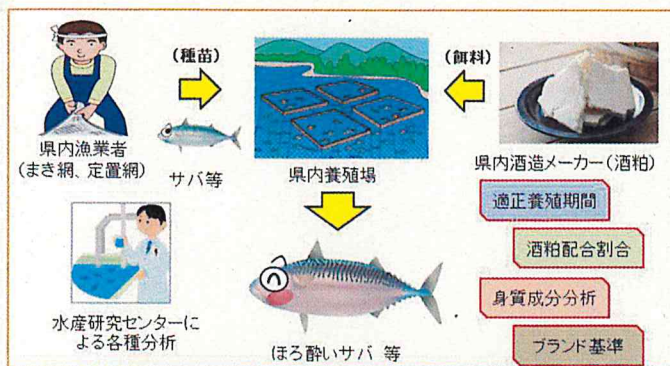


シロアマダイの受精卵と稚魚

◎目次

- ◇全国初！シロアマダイ種苗の大量生産に成功
 - <外海研究部増殖加工グループ 内田 明>
- ◇やまぐちほろ酔い養殖業推進事業
 - <外海研究部増殖加工グループ 白木信彦>
- ◇アユ産卵場造成の取り組み支援
 - <内海研究部増殖病理グループ 石田健太>
- ◇山口県沿岸の海底地形調査
 - <外海研究部海洋資源グループ 大田寿行>
- ◇ミルクイ養殖を始めてみませんか！
 - <内海研究部海洋資源グループ 安部 謙>
- ◇トラフグの資源管理について -小型魚保護-
 - <内海研究部海洋資源グループ 馬場俊典>

やまぐちほろ酔い養殖業推進事業



ブランド養殖魚(やまぐちほろ酔いシリーズ)の開発

ブランド化による販路拡大

山口県の日本酒出荷量は12年連続で増加しており、その副産物である酒粕も増加していることから、その酒粕を養殖用飼料に活用した、山口県ならではのブランド養殖魚の開発に取り組んでいます。

水産研究センターでは、陸上水槽で飼育した魚に酒粕を添加した飼料を与え、身質成分等の変化について基礎的な試験を行っています。

この度、酒粕を添加した飼料を与えた区と通常の飼料を与えた区において、10人中9人から「酒粕を添加した飼料を与えたサバのほうが美味しい」との評価がありました。

今後、研究成果に基づき、本県独自の養殖業を振興していきます。

アユ産卵場造成の取り組み支援

アユはサケ目アユ科に属し、独特な香りと繊細な味で古くから親しまれている魚ですが、漁獲量は年々減少しています。減少要因の一つとして近年の河川環境の変化により、川底に砂が堆積し、卵を産み付ける小石が埋まる等、アユの適卵適地の縮小が考えられています。この対策として、川底を耕して堆積した砂を流し、アユの産卵に適した小石を露出させる「産卵場造成」の取り組みが、県内の内水面漁協において行われています。

当センターでは、産卵場造成前に河川環境を評価し、アユの産卵に適した産卵場ができるよう造成する場所や方法について助言することで、取り組みを支援しています。



佐波川における産卵場造成

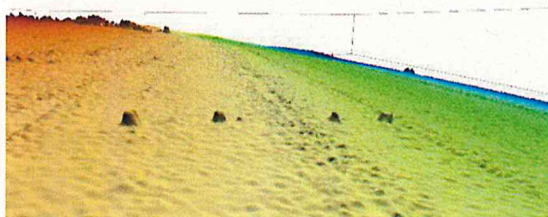


産卵場の小石に産み付けられたアユの卵

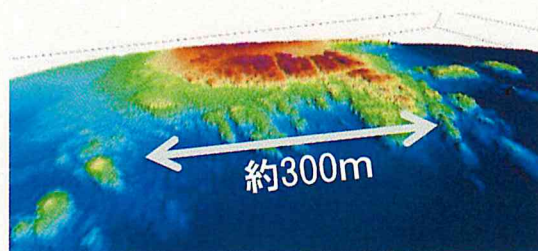
山口県沿岸の海底地形調査

山口県の漁業調査船「かいせい」（125トン）にはマルチビーム音響測深器が搭載されており、海底地形を広範囲かつ詳細に調査して3D画像で表示することが可能です。

これまでに定置網の設置場所を選定する際の障害物の確認や、クエやキジハタの新規漁場探索などに活用されています。今後も高解像度の音響測深器を漁場の把握や水産生物の生態調査等に活用していきたいと考えています。



発見された障害物

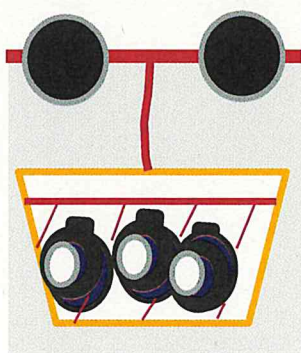


クエ漁場の海底地形図

ミルクイ養殖を始めてみませんか！

水産研究センターは、全国で初めて高級二枚貝「ミルクイ」のカゴ垂下式養殖技術を確認し、養殖マニュアルを作成しました。ミルクイを軽石を敷いたカゴに収容し、潮通しの良い海中（水深3m）に吊るすだけで養殖できます。付着生物と害敵生物の除去のため年に2～3回カゴの掃除を行えば、1年半の養殖期間で150～200g（殻長8～9cm）/個の生産が可能です。

現在、養殖用のカゴとミルクイ稚貝の「お試しセット」を県内漁業者限定で5セット/経営体まで無償で配布していますので、あなたもミルクイ養殖を始めてみませんか。



海中に垂下したミルクイ（カゴ養殖）



ミルクイお試しセット

トラフグの資源管理について

—小型魚保護—

関門海峡に近い山口県瀬戸内海西部海域（下関市及び山陽小野田市の沿岸）には、トラフグの産卵場と幼稚魚育成場が存在します。心化から着底、沖合に至る成長と移動・分布の詳細を明らかにするため、2014年7月から2016年12月まで小型底びき網による試験操業と小型定置網からの混獲魚買取調査を行いました。

調査の結果、トラフグ0歳魚は概ね全長20cmになるまで当海域で生息すること、及び幼稚魚は集団で移動するため混獲されやすいことがわかりました。

2017年から山口県瀬戸内海区漁業調整委員会指示（山口県瀬戸内海海域において、全長20cm以下のトラフグ幼稚魚の周年採捕禁止）が発動され、小型魚保護による資源回復が取り組まれています。

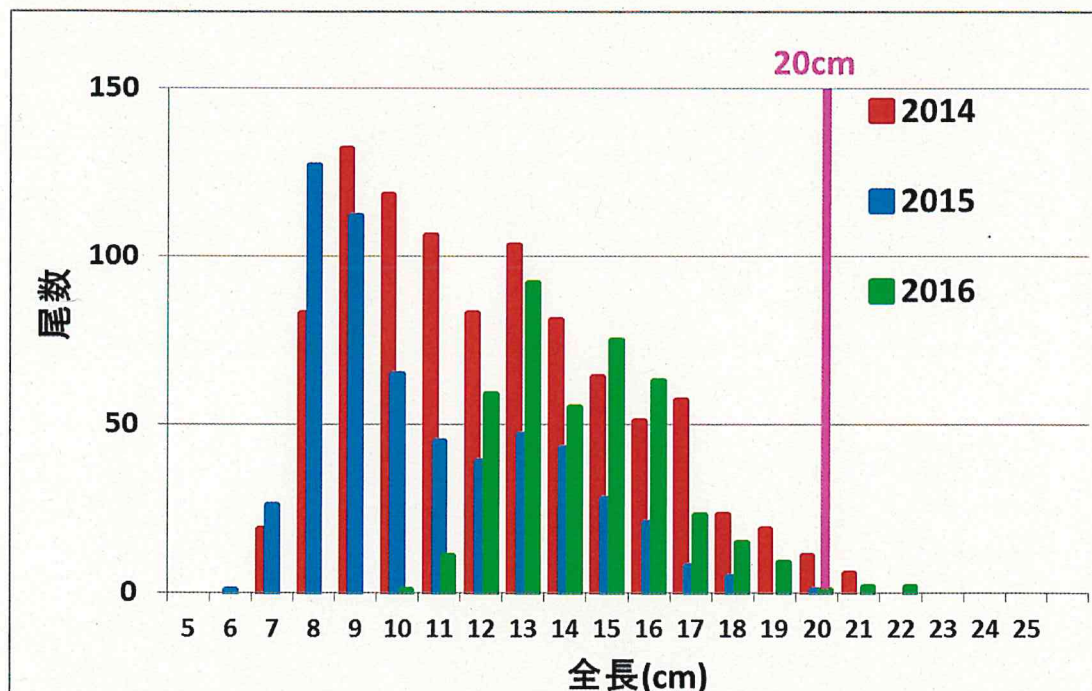


図 7月から12月までの山口県下関市及び山陽小野田市沿岸域における0才魚の全長組成（試験操業及び混獲魚買取調査）

*但し、2016年は9月から12月集中実施

編集・発行 山口県水産研究センター企画情報室
 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3
 電話0837-26-0711 email:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp
 内海研究部 〒754-0839 山口市秋穂二島437-77
 電話083-984-2116 email:a16403@pref.yamaguchi.lg.jp